

接続表現と列挙の文章構造の関係（3）

木 戸 光 子

1. はじめに

本稿では、留学生と日本人学生に行った接続表現想定調査と作文調査のまとめとして、列挙の文章構造の多様性について述べる。

木戸（1999）の接続表現想定調査では、接続表現を手がかりに、理由の列挙がどのような文章構造として読み手にとらえられたかを分析、考察した。また、木戸（2001b）の作文調査では、実際の作文で理由などの列挙がどのような文章構造として書き手に表現されたかを分析、考察した。2つの調査の結果、日本語学習者である留学生、また、日本語母語話者である日本人学生にとっても、列挙の文章構造は必ずしも一義的でわかりやすいものとは言えないことがわかった。

そこで、本稿では、前回の調査結果に接続表現調査の追加調査の結果を加えて、一見すると単純明快に見える列挙の文章構造が複雑で多様であること、さらに、2つの調査結果を踏まえて、文章構造分析から見た留学生の作文教育の課題について述べる。

2. 読み手から見た列挙の文章構造

2. 1 接続表現想定調査の概要

木戸（1999）では、文型の授業で接続表現を学習した中上級学習者（日本語能力検定1，2級合格程度）15名、および日本人学生14名について接続表現想定調査を行い、列挙がどのような接続表現で想定されるかによって、列挙の文章構造がどう理解されるかを調べた。列挙の文章構造を含む文章として「日本の物価はなぜ高い？」という文章を取り上げ、4つの理由の列挙にあたる4つの文段について、段落冒頭の接続表現を読み手に想定させた。（調査票および

原文は付録資料1参照)。原文の文章構造と接続表現は表1のとおりである。なお、接続表現の種類については市川(1978)に従う。

表1 原文の文章構造と接続表現(木戸(1999)より転載)

文番号	文段の機能	接続表現	接続表現の種類
①～③	問題提起		
④～⑧	理由1	まず	添加
⑨～⑩	理由2	次に	添加
⑪～⑫	理由3	また	添加
⑬～⑰	理由4	しかし一方で	逆接+対比

この原文は、日本の物価が高いという4つの理由を列挙しているが、理由4の接続表現が列挙を示す添加ではなく、「しかし一方で」という逆接+対比になっている。読み手が添加以外の接続表現を想定するかどうか、特に理由4のところでどんな接続表現を想定するかで、列挙の文章構造のとらえ方のバリエーションが出てくる可能性がある。

2.2 接続表現想定調査の追加調査

今回追加調査として、初級から同一の教科書とカリキュラムで学習した日本語学習者21名(日本語能力検定2級合格程度)にも接続表現想定調査を行った。これは、学習者の学習内容によって調査結果が左右されるのかどうかを確かめるために行った。調査結果は図1のとおりである。

前回調査と同じく、4つの理由を添加の接続表現で列挙する例が最も多く、10例であった。理由4は原文では「しかし一方で」と、逆接+対比の接続表現になっているが、理由1、理由2、理由3を添加にして理由4を逆接にした例は4例で、理由4を対比にした例はなかった。

一方、前回調査と異なる結果も出てきた。理由1、理由2、理由3を添加にして理由4に補足の接続表現を入れた例が8例あり、「だから」4名、「それで」「このように」「ついに」各1例であった。

この「添加→添加→添加→順接」の例は「問題提起→理由1～3(3つの理由の列挙)→理由4(1つのより重要な理由)」という尾括型となり、理由4が結論になる。これは、「添加→添加→添加→逆接」という原文に近い尾括型

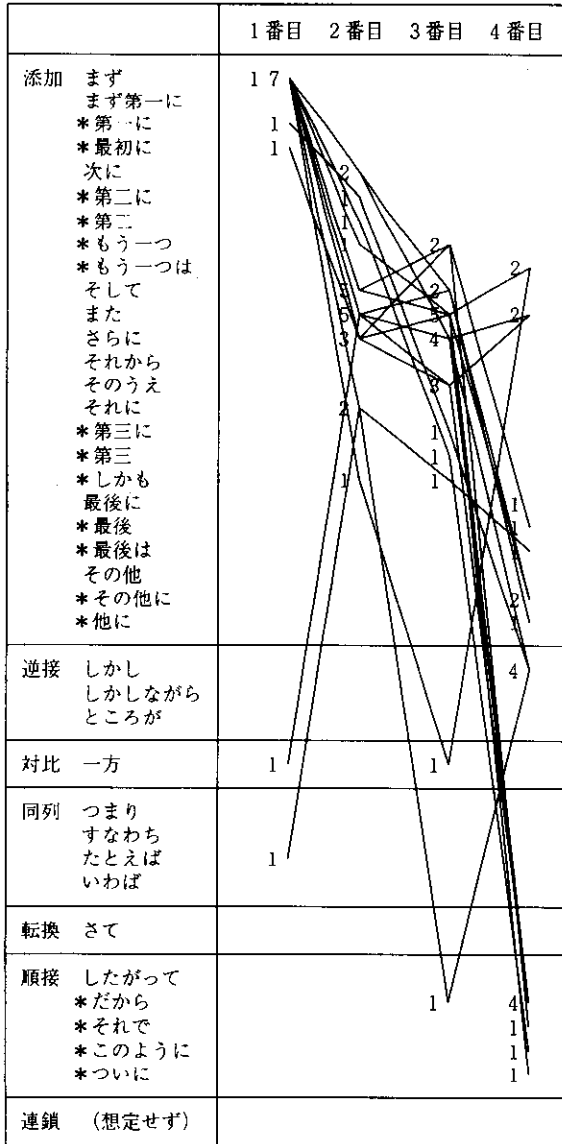


図1 追加調査で日本語学習者の想定した接続表現の言語形式と出現順
 (*は追加調査で新たに出てきた接続表現を表す。数字はその言語形式を想定した被験者数、線は各被験者が想定した理由1から理由4までの言語形式を出現順にたどったもの)

とは異なる。

以上、想定された接続表現から文章構造の型を推定すると、次の図2のような連続性が考えられる。なお、文章構造の型については佐久間(1986)に従う。

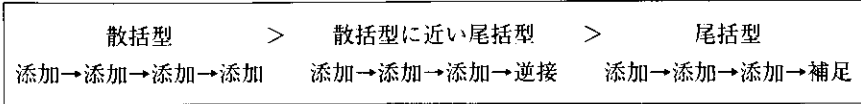


図2 文章構造の型の連続性

文章構造の型から考えると、逆接または対比の接続表現は列挙の文章構造の中では添加の続きで、理由の列挙を踏まえて複数の理由を2種の理由に再分類しているにすぎない。したがって、文章末尾の結論にあたる理由4の部分は、補足の接続表現の方がより強く結論を表すため、理由の列挙にあたる理由3と理由4の切れ目がより明確である。

追加調査した留学生の例で理由4に補足の接続表現が出てきたのは、教科書や作文授業で学習した文章構造の型に関係がある可能性もある。追加調査を行った機関の教師の話では、意見文の作文で、双括型で書いて結論に補足の接続表現「だから」を使うよう奨励しており、教科書の文章では結論部分に補足の接続表現「このように」を使うことが多いとのことである。

2. 3 接続表現想定調査の結果から見た列挙の文章構造

表2は、前回および今回の追加の接続表現想定調査の結果から、想定された接続表現の種類、および列挙内容、そして想定された接続表現から考えられる文章構造の型をまとめたものである。

想定された接続表現が、「添加→添加→添加→添加」の場合、列挙は文章全体の構造に関係し、「問題提起→理由1→理由2→理由3→理由4」となる。4つの理由がすべて問題提起に対する説明になっているので、4つの理由それぞれが結論となる。したがって、結論が分散しているということから文章構造の型は散括型となる。

想定された接続表現が、「添加→添加→添加→逆接」「添加→添加→添加→対比」「添加→添加→添加→補足」の場合、列挙は文章の一部の構造である3つの理由に関係し、「問題提起→理由1→理由2→理由3→理由4(結論)」となる。逆接や対比、補足は理由4が他の3つの理由に比べて重要だということ

表2 接続表現想定調査で見られた接続表現と文章構造の型

（散括型・尾括型は文章構造の型，添加・逆接・対比は接続表現の種類，
→は，列挙内容の理由1・2・3・4に想定された接続表現を表す）

想定された接続表現	列挙内容	文章構造の型	出現傾向
添加→添加→添加→添加	4つの理由を同等に並べる	散括型(注1)	留学生・日本人学生
添加→添加→添加→逆接	3つの理由と1つの理由に再分類して理由を区別する	尾括型	留学生・日本人学生
添加→添加→添加→対比			
添加→添加→添加→補足	理由4が結論として強調されている	尾括型	留学生のみ

表す。したがって，文章全体の構造から見ると，理由4が結論にあたるということから文章構造の型は尾括型となる。

なお，調査に用いた原文は冒頭が問題提起から始まっているので，頭括型や双括型はない。

以上の結果より，留学生も日本人学生も，逆接や対比の接続表現という文章構造の手がかりがなければ，添加の接続表現のみを想定し，複数の同じ種類の理由を列挙する文章構造であると読み手はとらえると言える。つまり，原文と同じ文章構造として，複数の同じ種類の理由を再分類して列挙するには，逆接や対比の接続表現が必要である。また，留学生の場合，理由4に補足の接続表現が出てきたことから，接続表現の手がかりがなければ，列挙の文章に既習の文章構造をあてはめて尾括型と理解しようとすることがある。

3. 書き手から見た列挙の文章構造

3. 1 作文調査の概要

木戸（2001b）では，中上級学習者（日本語能力検定1，2級合格程度）28名，および日本人学生27名について作文調査を行った。「4月入学と9月入学と，どちらのほうがいいか」について「まず」「つぎに」という添加の接続表現を使って作文を書いてもらい，列挙の文章構造がどのように表現されるかを調べた（調査票は付録資料2参照）。

3. 2 作文調査の結果から見た列挙の文章構造

表3は、作文調査の結果をまとめたものである。

表3 作文調査で見られた接続表現と文章構造の型

使用された接続表現	列挙内容	文章構造の型	出現傾向
追加のみ	2つ以上の理由	双括型	留学生・日本人学生
追加のみ	2つ以上の理由	頭括型	留学生・日本人学生
追加のみ	2つ以上の理由、 2つ以上の利点など	尾括型	留学生・日本人学生

追加の接続表現「まず」「つぎに」が使われるのは、賛否の意見に対する理由を複数列挙する例が多い。しかし、理由の列挙でも、結論である賛否の意見の出現順により、文章構造の型は双括型・頭括型・尾括型に分かれる。

「賛否の意見→説明（2つ以上の理由の列挙）→賛否の意見」の場合は双括型となる。「賛否の意見→説明（2つ以上の理由の列挙）」の場合は頭括型となる。「問題提起→説明（2つ以上の理由の列挙）→賛否の意見」の場合は尾括型となる。さらに、同じ尾括型でも、特に日本人学生の作文に、「問題提起→説明（利点などの列挙）→賛否の意見」という理由でなく利点や立場を列挙したものが出てきた。

以上より、列挙内容は文章全体の構造の一部ではあっても結論ではなく、列挙の前後関係によって文章構造の型が異なると言える。

作文調査で書かれた作文では、接続表現想定調査の散括型とは異なり、文章全体の構造に関わる結論として列挙が使われなかった。これは、事実を述べる文章か意見を述べる文章かという文章の種類が関係していることが考えられる。理由の列挙について、接続表現想定調査で使ったような事実を述べる文章では、ある事実に対する説明だから、理由自体が結論となりうる。したがって、理由の列挙は文章全体の構造に関係する。一方、作文調査で書かれたような意見を述べる文章では、理由は賛否などの意見の論拠であり、結論ではない。

4. 文章構造分析から見た留学生の作文教育の課題

4. 1 日本人学生の作文との比較から見た留学生の作文の特徴

以上、接続表現想定調査と作文調査の結果から、列挙を含む文章について、読み手としても書き手としても多様な解釈がなされ、文章構造の型と接続表現という表現上の特徴についてバリエーションがあることがわかった。ここでは、留学生の作文教育という観点から、留学生と日本人学生の調査結果を比較、検討する。

留学生の作文は日本人学生の作文に比べて次の点で異なる。どれも接続表現と文章構造を関連づけずに使用しているため起こるものと考えられる。

(1) 接続表現の種類は選択できても下位分類の言語形式の選択はむずかしい

接続表現想定調査で想定された追加の接続表現については、留学生の場合、接続表現の種類は同じ追加でも、実際に想定した接続表現の言語形式のばらつきが日本人学生より大きかった。また、4つの接続表現の選び方が理由1から理由4まで一定ではない例も見られた。4つの列挙内容の順序を意識して接続表現を想定しておらず、接続表現の表現意図がよくわかっていないまま使用しているためと考えられる。

(2) 既習の文章構造の型にあてはめて接続表現を使用する傾向が見られる

2. 2で述べた追加の接続表現想定調査で理由4に補足の接続表現が想定された例である。文章構造の型とそれに対応する接続表現が既に学習されている場合、それが一つの型となって他の文章の理解にも影響すると考えられる。既習の型にあてはまらない文章にまでを特定の型にあてはめてしまう弊害をもたらす恐れがある。

(3) 列挙の必然性を表現上明示しない傾向がある

列挙内容の明示については、留学生の作文では、列挙する前に、「理由として」「その理由は2つあります」などのいわゆる「メタ言語的な」表現（注2）が日本人学生の作文に比べて使われていない。そのため、文章全体の構造から見ると、何のために列挙しているのか明確でない作文がある。文章構造の手がかりが表現上明示されないと、書き手の意図が読み手にはっきり伝わらないことがある。

4. 2 留学生の作文教育の課題

以上、接続表現想定調査という読み手側からの調査と、作文調査という書き手側からの調査の結果により、列挙の文章構造の多様性とその要因について検討してきた。以上の結果を踏まえて、文章構造分析から見た留学生の作文教育の課題について述べる。

留学生の作文教科書で、教科書にあるモデル文章や文型や文章の型を理解してそれと同じ型を使って他の内容について作文を書くことがある。しかし、実際に書かれた作文を分析すると、同一の型が異なる表現で表される場合、異なる型が同一の表現で表される場合がある。そのため、同じ文章構造の型の中で表現上のバリエーションができるのである。例えば、接続表現想定調査の結果のように、同じ尾括型でも、添加・逆接・対比・補足のうちのどの接続表現を選択するかによって文章展開が変わる。また、作文調査の結果のように、「まず」「つぎに」という同一の添加の接続表現を使っても、結論の位置によって双括型・尾括型・頭括型と異なる文章構造の型になる。

したがって、作文教育の前提として、様々な文章構造の型に対応してどんな表現上のバリエーションがあるのかを明らかにすることが重要である。教師は学習者が書く多様な文章の特徴を的確に学習者に説明できる必要がある。

今回の作文調査の留学生の作文例で言うと、理由の列挙の際、列挙する前に列挙内容を明示しない例が多かった。実際の作文学習では、学習者の作文に対して教師は、列挙内容を明示するにはどのような表現が必要か、また表現のバリエーションにはどのようなものがあるのか、説明が求められる。以下、日本人学生の作文例を使って表現のバリエーションを示してみる。

下のJ04とJ05は列挙内容の前に理由を列挙することを表現上明示する例（ の部分）、J10は列挙内容の前に明示せず文末表現「からである」（ の部分）によって理由であることを表現上明示する例である。どの例も「賛成意見→論拠の説明（理由の列挙）→賛成意見」という冒頭と末尾に結論のある双括型である。（J04、J05、J10は日本人学生の作文データ番号を表す）

例 日本人学生の作文例－4月入学賛成意見で、双括型、理由を列挙した作文
 J04 私は、日本は4月入学のほうが良いと思います。その理由としてまず、
 (略)。つぎに、(略)。以上の2点より、私は4月入学のほうが良いと
 考えます。

- J05 私は4月入学のほうが良いと思います。以下にその理由を述べてみます。まず、(略)。次に(略)。以上の2点の理由から、私は4月入学が良いと思います。
- J10 私は9月入学よりも、4月入学のほうが良いと思う。まず、(略)からである。つぎに、(略)。このようなことから考えて、私はやはり、桜の咲く春である4月入学のほうがよいと思う。

5. まとめ

以上、接続表現想定調査と作文調査により、同じ種類の内容を列挙することが文章構造にどのように表現されるのか、接続表現を手がかりに分析、考察した。接続表現という表現上の特徴と文章構造の型とを組み合わせることで、列挙の文章構造のパリエーションを明らかにした。

文章構造の型に関わる表現上の特徴は、接続表現のほかにも文末表現や反復表現など、文章構造の手がかりとなる表現がある。従来の文章論ではこれらの表現は様々な文章を同一の文章構造の型に認定する手がかりとしてのみ扱われる傾向があった。しかし、作文教育の立場では、同一の文章構造の型がどんな表現上の特徴から様々な文章に分かれるのかという観点から、文章構造の型とそれに対応する表現上の特徴を再検討することが重要である。

謝辞 接続表現想定調査の追加調査に協力いただきました東京外国語大学留学生日本語教育センターの方々に感謝いたします。

付記 本研究は平成11年度および12年度筑波大学学内プロジェクト奨励研究「留学生の意見文における文章構造と表現効果の研究」の助成による研究の一部である。

注

- 1 木戸(1999)の分析では尾括型の可能性もある。理由4が添加の接続表現の下位分類の追加の機能の場合、4つの理由が同等に列挙されるのではなく理由4に重点が置かれることも考えられる。

2 「メタ言語的」な表現とは、文章の実質的な内容を表さず文章展開機能を表すだけの表現を指す。杉戸・塚田（1991）、木戸（2001b）参照。

参考文献

- 市川孝（1978）『国語教育のための文章論概説』教育出版
 樺島忠夫（1979）『日本語のスタイルブック』大修館書店
 木戸光子（1999）「接続表現と列挙の文章構造の関係（1）」『文芸言語研究言語篇36』筑波大学文芸・言語学系 pp.69-87
 木戸光子（2001a）「日本語教育におけるアカデミックライティングの試み」『日本語教育論集16』筑波大学留学生センター pp.121-132
 木戸光子（2001b）「接続表現と列挙の文章構造の関係（2）」『文芸言語研究言語篇40』筑波大学文芸・言語学系 pp.41-55
 佐久間まゆみ（1986）「論説文の文章・文段構造と要約文の類型について」『日本語論集2』筑波大学留学生センター, pp.1-29
 杉戸清樹・塚田実知代（1991）「言語行動を説明する言語表現」『国立国語研究所報告103』国立国語研究所
 寺村秀夫・佐久間まゆみ・杉戸清樹・半澤幹一編（1990）『ケーススタディ日本語の文章・談話』おうふう
 時枝誠記（1950）『日本文法口語篇』岩波書店
 永野賢（1986）『文章論総説』朝倉書店
 二通信子・佐藤不二子（2000）『留学生のための論理的なレポートの書き方』スリーエーネットワーク
 浜田麻里・平尾得子・由井紀久子（1997）『大学生と留学生のための論文ワークブック』くろしお出版

付録資料

1 接続表現想定調査の調査票（木戸（1999）より転載，一部改変）

調査概要

実施年：1998年

対象：日本語母語話者14名と，中上級レベル（日本語能力検定試験1級または2級合格程度）の日本語学習者15名の計29名。日本語学習者は授業で連文レベルの接続表現を学習している。なお，複数記入してあった3名については，一番はじめに書いてあったものだけを調査対象とした。

方法：表1のように，原文にある4つの理由に関しては，1つの理由は1つまたは2つの形式段落から構成されている。理由が変わるごとにその形式段落のはじめに接続表現がある。その接続表現を空欄にして，被験者に接続表現を記入してもらった。

接続表現想定調査票 (①~⑰は文番号。文番号は調査時はつけていない。)

氏名 ()

質問 次の文章を読んで、() に適当な接続詞を入れてください。

日本の物価はなぜ高い？

「地価」「流通機構」「規制」のほか、消費者の「ブランド志向」にも問題あり

①日本の物価が他の先進諸国に比べて高いということは、先に述べた通りです (→19項)。②では、なぜ日本の物価はそんなに高いのでしょうか。

③いくつか理由を挙げてみましょう。

④()、大都市圏を中心に上昇している土地の価格が、物価水準を押し上げている要因の一つです。⑤東京23区の土地の値段で、アメリカ全土が買えるといわれているほどです。

⑥したがって、銀座で食べる1000円のラーメンと田舎で食べる500円のラーメンの味が同じでも、何ら不思議なことはありません。⑦日本一地価の高い銀座では土地にかかる税金やテナント料も高いため、その分が費用として商品の価格に反映されるわけです。⑧つまり、ラーメンの価格の差500円のかかなりの部分が、土地代となっているのです。

⑨()、日本の流通機構が複雑すぎることも、一つの理由として挙げられます。⑩各流通段階でマージンが上乘せされるわけですから、いきおい価格も高くなっていきます。

⑪()、モノやサービスの価格にさまざまな規制が働いていることも、価格を割高にしている要因として見逃せません。⑫公共料金の多くが他の先進諸国に比べて割高になっているのは、その分野での競争原理が働きにくいからです。

⑬()、日本の物価を押し上げているのは、私たち消費者の行動や好みにも問題があると指摘されています。

⑭たとえば、日本人のブランド志向です。⑮欧米のブランド品の価格は、本国よりも日本のほうが高いものが多くなっています。⑯値段を下げるとブランドイメージに傷がつき、逆に売れなくなると考えられています。⑰また、会社や個人の贈答品も、値段が高いことが誠意の現れといった国民性もあり、こうした一種の見栄も問題の一つとっていいでしょう。

(大和総研『経済のしくみ』日本実業出版社より)

2 作文調査の調査票（木戸（2001b）より転載）

調査概要

題「4月入学と9月入学とどちらのほうがいいか」

実施年：1999年

対象：大学および大学院留学生 計28名。中上級日本語レベル（日本語能力試験1, 2級合格程度）。日本人学部大学生 計27名。

方法：授業時に簡単に調査趣旨を説明し、調査用紙を配布する。B5紙1枚に作文を書くようにし、持ち帰って書いてもらい、1週間後授業時に回収または郵送で回収する。

作文のテーマ

「4月入学と9月入学と、どちらのほうがいいか？」

現在、日本の学校は、小学校から大学まで4月入学になっています。他の国では9月入学のほうが多いそうで、日本でも時々9月入学のほうがいいのではないかと議論されています。

日本の場合、4月入学と9月入学とでは、どちらのほうがいいと思いますか。あなたの意見を書いてください。

<!!重要!!> 書くときは、「まず」「つぎに」ということばを必ず使ってください。

それから、よこ書きにしてください。